

令和6年度の教育プログラム認定（学部）について

山形大学理事（教育担当）

出 口 毅

令和6年度の各学部等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全てのプログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和6年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各学部等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・カリキュラムチェックリストの作成により、各授業の達成度レベル等が可視化できている。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて、改善点や検討すべき点について各学部等において再度検討され、必要に応じて修正を加えた上で、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・今回で各学部等の教育プログラム検証作業は、養護教諭特別別科を除き8回目となるが、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントが確立されている。
- ・前回の各授業のDP及びCPとの対応関係や達成度レベルの指標、履修者数等のデータを基に今回のカリキュラムチェックリストの作業が進められており、適切な授業配置が行われている。

【会議での審議状況】

令和5年11月13日	教育推進機構運営会議（協議）
令和5年11月29日	役員会（協議）
令和5年12月13日	教育研究評議会（報告）

令和6年度の教育プログラムの検証結果について

学部等	学科	コース	観点1	観点2	認定の可否	備考
人文社会科学部	人文社会科学科	人間文化コース	○	○	○	
		グローバル・スタディーズコース	○	○	○	
		総合法律コース	○	○	○	
		地域公共政策コース	○	○	○	
		経済・マネジメントコース	○	○	○	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	○	○	○	・「フィールドプロジェクト」について、CP1(3)(4)の対応関係を示す記号を修正・統一した。 ・退職教員の授業担当科目について、検証・見直しを行い、更新・修正を図った。 ・開講科目に関して見直しを行い、一部科目を削除・整理した。
		文化創生コース	○	○	○	・「フィールドプロジェクト」について、CP1(3)(4)の対応関係を示す記号を修正・統一した。
理学部	理学科		○	○	○	一部の新規開講科目（ナンバリング等）において入力漏れがあるとの指摘を受け、修正を行った。
医学部	医学科		○	○	○	
	看護学科		○	○	○	
工学部	高分子・有機材料工学科		○	○	○	・CP1の関連科目について、「専門分野の中核となる概念や原理を理解する専門教育科目」が示されていない旨の指摘に対し、中核となる科目を追加した。 ・CP及びDPと科目との対応を見直し、関連性がより明確になるよう修正した。
	化学・バイオ工学科		○	○	○	・DPと科目との関連を確認し、一部の科目について、達成に向けた科目の位置づけ等を示す記号の修正を行った。
	情報・エレクトロニクス学科		○	○	○	
	機械システム工学科		○	○	○	
	建築・デザイン学科		○	○	○	
	システム創成工学科		○	○	○	
農学部	食料生命環境学科	アグリサイエンスコース	○	○	○	DPと科目との関連を確認し、一部の科目について、対応状況を示す記号を追加した。
		バイオサイエンスコース	○	○	○	
		エコサイエンスコース	○	○	○	
養護教諭特別科			○	○	○	開講科目に関して見直しを行い、一部科目を削除・整理した。

カリキュラム・チェックリスト例（理学部）

教育課程の編成・実施方針 (CP)														学位授与方針 (DP)																							
CP1 社会生活における広い視野・コミュニケーション能力・健全な批判精神等の醸成、並びに高等学校教育との接続に留意した理学分野の基礎的教育を基盤共通教育において行う。														DP1 良識ある市民として高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。																							
CP2 専門分野の知識を修得させるため、講義科目、実験科目、演習科目などを適切に組合せた基盤専門教育のカリキュラムを国際標準に準拠して体系的に編成する。また、課題の解決能力と研究基礎力の向上を図るため卒業研究を配置し、専門分野の最先端にも触れさせる。														DP2 地域社会や国際社会で貢献する意欲をもち、他者の多様性を尊重して、異なる文化や考え方をもち人々と協働できる。																							
CP3 専門分野以外の学問領域や国際交流、地域社会との連携にも関心をもて、幅広い理学の学際的知識が身に付く科目を配置する。														DP3 数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学など、幅広い理学の教養と基礎知識を身に付けている。																							
CP4 理学を含む幅広い知識を有し、地域社会や世界が抱える問題の解決に貢献できる実践力を備えた社会人を育成するため、柔軟な発想力と独創性を養成する科目を配置する。														DP4 人文科学や社会科学における基本的な知識を身に付けている。																							
CP5 教育や科学の普及、学術振興に寄与できる職業を目指す学生を対象として、科学の専門的内容とその社会的意義を人々に分かりやすく伝える能力を養成する科目を配置する。														DP5 日本語及び英語で適切に情報を収集し、それらを活用できる基礎的な語学力を身に付けている。																							
CP6 科学技術の高度な専門的知識・技能を備えた職業人を目指す学生を対象とした大学院接続プログラムを設け、より高度で実践的な理学の専門知識と研究遂行能力を養成する。														DP6 幅広い教養に基き、社会課題の解決や教育・科学の普及などを通じて、他者と協働しながら社会貢献に取り組める論理的思考力やコミュニケーション能力を身に付けている。																							
														DP7 幅広い理学の基礎学力を身に付けている。																							
														DP8 選択したコースカリキュラムを中心とした理学の専門的知識を身に付け、その分野の先端的な研究内容を理解し、説明できる能力を身に付けている。																							
														DP9 専門的な素養を基盤に科学的思考方法に従って、社会が要請する課題を解決する能力を身に付けている。																							
		授業科目名		単位数	授業形態	開講学年	ナンバリング	令和3年度の履修者数	令和4年度の履修者数	時間割コード	教育課程の編成・実施方針 (CP)						授業の目的	授業の到達目標	学位授与方針 (DP)									授業担当		授業種別	開講形態	チェック欄					
											CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	種別 (主・副・兼・非常勤・新採等)	氏名	必修・選 必・選科・自由・免許・資格・他		到達目標の明確性	授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか			
理学共通科目																																					
		理系のキャリアデザインA	1	講義	1		SFC1011	223	223	30100				○	○	○	○	自分の考えや要望などの自己分析を行い、卒業までの学習計画を作成することを目的とする。	1)自分の興味関心、大切にしていること、価値観といった自己理解(内面の理解)ができる。 2)自己理解の結果を基にして社会に出てからの自分の生き方、働く姿を言語化できる。 3)自分が望む将来の姿を踏まえ、大学でどのように学んでいくのかを考え、履修モデルの形で表現できる。	◎ I		○ I		△ I		△ I		○ I	主	小倉 泰憲	必修						
		理系のキャリアデザインB	1	講義	2		SFC2011	215	213	30120				○	○	○	○	卒業までの学び方を踏まえた履修計画ができることを目的とする。	1)自分が望む仕事分野の現状を客観的に把握し表現できる。 2)自己理解(内面の理解)の結果と仕事分野の現状を基にして履修計画を立てることができる。	◎ R		○ R		△ R		△ R		○ R	主	小倉 泰憲	必修						
		インターンシップ	2	実習	3		SFC3010	0	8	30465				○	○	○	○	国際化と情報化が発展する現代社会において、自治体・企業・特定非営利活動法人等における業務の実習を通じ、(1)学習意欲と自らのキャリア形成に関する意識を喚起し、高い職業意識、自立心と責任感を育成すること、(2)学生が本学で学んだ専門的知識と能力を応用し実践する能力を育成する。	1)実習を通じて、仕事を外見やイメージだけでなく、外部からは見えにくい部分を含めて総合的に理解することができる。 2)仕事に際して担う必要のある責任の重さとこれを果たしたときの充実感(働き甲斐)を感じることができるようになると共に、自分の適性について理解することができる。 3)実習により社会人になるまでに身につけるべき能力や今後の学習目標についての認識することができる。	○ M, A		○ M, A		○ M, A		○ M, A											
		サイエンスセミナー	2	講義	1		SFC1021	215	225	30110			◎		○	○	○	本学部の専門コースの選択に資する導入科目であり、学生が理学分野全般の研究が俯瞰できるようになることを目的とする。	専門に縛られない柔軟な発想と創造性を持ち、理学分野全般の研究が俯瞰できる。				◎ I		○ I	○ I	○ I	主	サイエンスセミナー担当教員	必修							
		放射線取扱入門	1	講義	3		SFC3020	37	21	30440				○	○	○	○	放射性同位元素や放射線を有効に利用することができるように、放射線に関する正確な知識と安全な取扱いを習得する。	1)放射性同位元素及び放射線を安全に利用することができる。 2)実際に研究実験を行うために必要となる基礎知識を身に付けている。							△ M	△ M	△ M	主 非常勤	門叶 冬樹 未定1	選科						

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。
◎ DP達成のために、特に重要な事項
○ DP達成のために、重要な事項
△ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。
Ⅰ Introduced＝導入
R Reinforced/Practiced＝発展/強化
M Mastered＝熟達
A Assessed＝測定/把握

地域教育文化学部（児童教育コース）**カリキュラム・ポリシー（CP）****1. 教育課程の編成・実施等**

- (1) 基盤教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。
- (2) 学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- (3) 「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を実践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。
- (4) 基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- (5) 「児童教育コース」に2つのプログラムを配置する。
 - 小学校教育プログラム：小学校教育のスペシャリストの養成。小一種免許状（必須）、中・高一種免許状（国語、社会、数学、理科、英語。高校社会は地歴）、幼一種免許状及び特別支援一種免許状が取得可。
 - チャレンジプログラム：教職大学院進学を前提にした6年一貫教育。小一種免許状（必須）。

2. 教育方法

- (1) 基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- (2) 主体的な課題発見・解決能力を培うために、PBL型授業を学年進行に伴って拡充する。
- (3) 人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から配置する。

3. 教育評価

- (1) 学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。
- (2) 地域教育の課題解決のために実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。

地域教育文化学部（文化創生コース）

カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 教育課程の編成・実施等

- (1)基盤教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語活用能力の向上を促す。
- (2)学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- (3)「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、地域貢献・地域創生を实践するための基本となる科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を地域課題の解決を目指して総合的に活用し企画・運営・実行していく実践演習群の「フィールドプロジェクト」とで編成する。
- (4)基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- (5)文化創生コース」に3つのプログラムを配置する。
 - 心身健康支援プログラム：地域の健康文化を支援する人材育成。認定心理士、中・高一種免許状（保健体育）取得可。公認心理師の受験資格に関わる単位の修得可。
 - 芸術文化創生プログラム：地域の芸術文化を支援する人材育成。中・高一種免許状（音楽、美術）取得可。
 - チャレンジプログラム：大学院（地域教育文化研究科文化創造専攻）進学を前提にした6年一貫教育。中・高一種免許状（音楽、美術、保健体育）取得可。

2. 教育方法

- (1)基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- (2)主体的な課題発見・解決能力を培うために、PBL型授業を学年進行に伴って拡充する。
- (3)人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開する。

3. 教育評価

- (1)学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。
- (2)地域貢献・地域創生のため実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。

工学部（高分子・有機材料工学科）

ディプロマ・ポリシー（DP）

- (1) 人類の叡智と多様性に関心を持ち、洞察力をもって主体的、自律的に学び続けることができる。
- (2) 徳を重んじ、良識ある市民としての倫理観と責任感及び技術者倫理観を身につけている。
- (3) 自立した社会人・研究者として、専門知識を生かして社会や産業における課題の解決に取り組む意欲を身に付けている。
- (4) 確かな論理的思考力に基づきながら、自由な発想力と確かな実行力により、課題を解決することができる。
- (5) 複数のメンバーと協働的に仕事を進めるため、責任感、協調性、計画性及びコミュニケーション力を身に付けている。
- (6) 国毎の文化・価値観の多様性を理解し、将来的に国際的な課題の解決においてリーダーシップを発揮できる素養を身に付けている。
- (7) 高分子科学、有機材料科学において中核となる学術上の基本的な概念や原理を体系的に理解している。
- (8) 高分子科学、有機材料科学の知識を多角的・多面的に応用できる技能を身につけている。
- (9) 既に学んだ高分子・有機材料科学の範囲にとらわれることなく、周辺の新分野に関しても、自発的かつ継続的に学習できる能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー（CP）

- (1) 3年間の基盤共通教育においては、豊かな人間力と社会力を養成する基盤共通教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する専門教育科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2) 専門教育においては、基盤共通教育で得た知識を多角的に応用できる実践的能力と課題解決力などを育成するため、国際標準に準拠した体系性・順次性のある授業科目を配置する。
- (3) 数学、物理学及び情報処理分野に関し、基礎的科目に加え、応用的な講義、実験及び演習科目を配置する。
- (4) 計画・実行・まとめ・発表を通して実行力・論理力・コミュニケーション力を身に付けるため、卒業研究、実験及び演習を配置する。また、国際的なコミュニケーション基礎能力を身に付けるため、外国語科目を配置する。
- (5) 社会人・技術者としての健全な価値観・倫理観を身に付けるための科目を配置する。
- (6) 自己のキャリア形成能力と、卒業後の自己学習能力を養うための科目を配置する。
- (7) 高分子・有機材料及び関連分野で新産業・新技術を創成する能力を身に付けるため、最先端の科学技術が習得できる科目を配置する。
- (8) 学部・学科を越えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を確実に選択できるようにするため、各授業科目で修得される知識・能力などを明確化したシラバスを作成する。

工学部（化学・バイオ工学科）

ディプロマ・ポリシー（DP）

- (1) 社会的な意義や責任感を自覚し、倫理的に正しい判断をする能力を身につけている。
- (2) 社会的・職業的に自立する意識と、社会と産業の発展に貢献する意欲を身につけている。
- (3) 他者と協力しながらチームで課題解決に取り組む能力を身につけている。

- (4)論理的な思考力と記述力及びコミュニケーション力を身につけている。
- (5)豊かな発想力をもって、計画的に仕事を進め、課題を解決に導く能力を身につけている。
- (6)国際的な視点から多面的に物事を捉え、課題解決を先導できる能力を身につけている。
- (7)応用化学、化学工学及びバイオ工学の基礎知識と、それらを応用する能力を身につけている。
- (8)科学技術に関する知識・情報を的確に把握する能力と、生涯にわたって自発的かつ継続的に学習できる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー (CP)

- (1)応用化学、化学工学及びバイオ工学の基礎として、数学、物理学及び情報処理の基礎科目とそれらを応用する科目を配置する。
- (2)専門分野における知識と応用力を養うために、化学・バイオ工学の基盤となる化学工学、物理化学、無機化学、有機化学及びバイオ工学に関する講義、実験及び演習に関する科目を体系的に配置する。
- (3)論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力及び国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、演習、実験、卒業研究及び外国語の科目を配置する。
- (4)健全な価値観と倫理観を身につけるため、技術者倫理、社会理解などに関する科目を配置する。
- (5)豊かなキャリアの実現に向けた職業観と生涯自己学習能力を養うため、キャリアデザイン、インターンシップ等の科目を配置する。
- (6)化学・バイオ分野における、新産業と新技術を創成する能力を身につけるために、最先端の科学技術が習得できる科目を配置する。

工学部 (情報・エレクトロニクス学科)

ディプロマ・ポリシー (DP)

- (1)広い視野に立った健全な価値観と協調性並びに技術者倫理観に基づく総合的な判断力を身に付けている。
- (2)職業選択を自主的に行える能力及び社会と産業の発展に積極的に貢献できる能力を身に付けている。
- (3)論理的な思考力と記述力、発表と討議の能力及びコミュニケーション基礎能力を身に付けている。
- (4)豊かな発想で、論理的、計画的、積極的かつ協動的に課題を解決する能力を身に付けている。
- (5)外国語に関する教養と国際的な視点に基づき、多様な文化や価値観を理解して多面的に物事を捉え、課題解決を先導できる能力を身に付けている。
- (6)情報科学と電気・電子通信工学の基礎知識を身に付け、それらを応用する能力を身に付けている。
- (7)実験・実習・演習を通じて、計画的に仕事を進め、まとめる能力を身に付けている。
- (8)諸現象の本質を捉え、その理解を通して習得し、その活用により自ら新分野を開拓する能力を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー (CP)

- (1)情報科学と電気・電子通信工学に関する専門教育科目の基礎として、数学、物理学及び情報処理の基礎的科目とそれらを応用する科目を配置する。
- (2)基盤共通教育科目で培った知識を発展させて、情報科学または電気・電子通信工学の応用力や展開力を養

うための講義、実験及び演習を体系的に配置する。

- (3)論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力及び国際的コミュニケーション基礎能力を身に付けるため、卒業研究、実験、実習、演習及び外国語の科目を配置する。
- (4)広い視野に立った健全な価値観と協調性並びに倫理観に基づいた総合的な判断力を身に付けるため、技術者倫理、社会理解などに関する科目を配置する。
- (5)豊かなキャリアの実現に向けて生涯自己学習能力と職業観を養うために、キャリアデザインや実践力の養成などに関する科目を配置する。
- (6)新しい産業や新技術の創造に繋がる能力を身に付けるために、最先端の情報科学及び電気・電子通信工学を習得できる科目を配置する。

工学部 (機械システム工学科)

ディプロマ・ポリシー (DP)

- (1)健全な価値観と倫理観を身につけている。
- (2)技術が社会や自然に与える影響と技術者が負う責任を理解している。
- (3)国際性を兼ね備え、他者を尊重しながらチームで問題を解決する能力を身につけている。
- (4)多様な価値観を理解でき、社会が要求する工学的問題の解決に取り入れることができる。
- (5)論理的思考力と理解力、および説明能力を身につけている。
- (6)独創性・創造性を発揮して、計画的に機械工学に関する課題を解決できる。
- (7)機械工学の中核となる知識・概念・原理・理論を理解し、デザインに活かすことができる。
- (8)ものづくりの実践的場面で、与えられた制約のもとで機械関連の問題を解決できる。
- (9)高度で多岐にわたって発展する先端技術を継続的に学び続けることができる。

カリキュラム・ポリシー (CP)

- (1)工学の基礎としての数学、物理学、情報処理の基礎知識を身につける科目群を配置する。
- (2)機械工学の基礎としての力学を体得するための科目群を必修として配置する。
- (3)機械工学の中核をなす実践的な専門科目群を配置する。
- (4)開発、設計、生産技術の基礎とエンジニアリングデザインを体得するための実験、実習、製図科目群を配置する。
- (5)技術者倫理と国際性を兼ね備えたリーダーシップ醸成のための科目群を配置する。
- (6)最先端科学技術の教育を取り入れ、継続的な学習を促す科目を配置する。

農学部（アグリサイエンスコース）

カリキュラム・ポリシー（CP）

CP 1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 学士課程基盤教育においては、豊かな人間力と社会力を醸成する基盤教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する基盤専門科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2) 食料、生命、環境科学について総合的で幅広い知識を持つため、基盤専門科目において、コース配属前の学生に対し、専門基礎導入科目を開講し、幅広い分野の教育を展開する。コース配属後も、幅広い分野の教育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。
- (3) 強い好奇心と探求心、諸課題への高い見識と展望を持って自ら解決する能力と、総合的な判断力を有した学生を育てるため、講義科目と実験・実習、演習科目とを効果的に配置し、併せて、学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、キャリア科目及び、学外・海外での実習科目を開講する。
- (4) 各コースにおいて定める専門的知識と能力が身につくよう、各コースに専門科目を配置する。
- (5) 学部・学科を超えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を選択するため、各授業科目で修得される知識・能力等を明確化したシラバスを作成する。
- (6) 各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ上に、専門分野のより高度な知識の習得を目指す「基幹プログラム」を配置する他、それらの理論や技術を活かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、及び、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」も配置する。

CP 2. 教育方法

- (1) 生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく初年次教育を展開する。また、必要に応じて、基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2) 自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を拡充する。

CP 3. 教育評価

- (1) 学習者が到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、不断の教育課程の点検と学生の学習成果を組織的に評価する。
- (2) 良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

農学部（バイオサイエンスコース）

カリキュラム・ポリシー（CP）

CP 1. 教育課程の編成・実施等

- (1) 学士課程基盤教育においては、豊かな人間力と社会力を醸成する基盤教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する基盤専門科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2) 食料、生命、環境科学について総合的で幅広い知識を持つため、基盤専門科目において、コース配属前の学生に対し、専門基礎導入科目を開講し、幅広い分野の教育を展開する。コース配属後も、幅広い分野の教育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。

育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。

- (3)強い好奇心と探求心、諸課題への高い見識と展望を持って自ら解決する能力と、総合的な判断力を有し学生を育てるため、講義科目と実験・実習、演習科目とを効果的に配置し、併せて、学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、キャリア科目及び、学外・海外での実習科目を開講する。
- (4)各コースにおいて定める専門的知識と能力が身につくよう、各コースに専門科目を配置する。
- (5)学部・学科を超えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を選択するため、各授業科目で修得される知識・能力等を明確化したシラバスを作成する。
- (6)各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ上に、専門分野のより高度な知識の習得を目指す「基幹プログラム」を配置する他、それらの理論や技術を活かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、及び、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」も配置する。

CP 2. 教育方法

- (1)生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく初年次教育を展開する。また、必要に応じて、基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2)自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を拡充する。

CP 3. 教育評価

- (1)学習者が到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、不断の教育課程の点検と学生の学習成果を組織的に評価する。
- (2)良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

農学部 (エコサイエンスコース)

カリキュラム・ポリシー (CP)

CP 1. 教育課程の編成・実施等

- (1)学士課程基盤教育においては、豊かな人間力と社会力を醸成する基盤教育科目と、専門分野の中核となる概念や原理を理解する基盤専門科目とが有機的に構造化されたカリキュラムを編成する。
- (2)食料、生命、環境科学について総合的で幅広い知識を持つため、基盤専門科目において、コース配属前の学生に対し、専門基礎導入科目を開講し、幅広い分野の教育を展開する。コース配属後も、幅広い分野の教育を受けられるように学科共通科目やコース選択科目を配置する。
- (3)強い好奇心と探求心、諸課題への高い見識と展望を持って自ら解決する能力と、総合的な判断力を有した学生を育てるため、講義科目と実験・実習、演習科目とを効果的に配置し、併せて、学習の成果を社会生活や職業生活の場で生かせるよう、キャリア科目及び、学外・海外での実習科目を開講する。
- (4)各コースにおいて定める専門的知識と能力が身につくよう、各コースに専門科目を配置する。
- (5)学部・学科を超えた授業科目を展開する一方、卒業時の学習到達目標の達成に必要な科目を選択するため、各授業科目で修得される知識・能力等を明確化したシラバスを作成する。
- (6)各コースにおける課題を解決するための理論や技術を学んだ上に、専門分野のより高度な知識の習得を目

指す「基幹プログラム」を配置する他、それらの理論や技術を活かして国際的に活躍したい学生を対象とする「国際展開プログラム」、及び、地域の活性化に貢献したい学生を対象とする「地域創生プログラム」も配置する。

CP 2. 教育方法

- (1)生涯を通じて主体的に学び続ける動機づけとなるような、多様で学際的な知識と技能が身につく初年次教育を展開する。また、必要に応じて、基礎学力の定着を目的とした授業時間外学習を促す。
- (2)自ら課題を発見して、解決に向けて探求し、成果を表現する能力を培うため、協働による参加型、対話型の学生主体の授業を拡充する。

CP 3. 教育評価

- (1)学習者が到達度を確認できる明確な成績評価基準を策定し、不断の教育課程の点検と学生の学習成果を組織的に評価する。
- (2)良識ある市民に求められる知識と技能、さらには主体的・自律的に学習に取り組む姿勢を評価する。

令和6年度の教育プログラム認定（大学院）について

理事（教育担当）

出 口 毅

令和6年度の大学院各研究科等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和6年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各研究科等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・研究科等の教育プログラム検証作業については、今回で4回目の実施となるが、スムーズに作業を進めることができた。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて改善点や検討すべき点を各研究科等において再度検討される等、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。

【会議での審議状況】

令和5年11月13日

教育推進機構運営会議（協議）

令和5年11月29日

役員会（協議）

令和5年12月13日

教育研究評議会（報告）

令和6年度の教育プログラムの検証結果について

【修士課程・博士前期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	教育統括ディレクターからの修正
社会文化創造研究科	社会文化創造専攻	社会文化システムコース	○	○	○	
		臨床心理学コース	○	○	○	
		芸術・スポーツ科学コース	○	○	○	
理工学研究科	理学専攻		○	○	○	
	化学・バイオ工学専攻		○	○	○	CP1の関連科目について、全ての科目が「高度専門科目」に該当するという指摘に対し、全ての科目にCP1の対応関係を示す記号を記載した。 CP2の関連科目について、全ての実験科目および演習科目が該当するという指摘に対し、全ての実験科目および演習科目にCP2の対応関係を示す記号を記載した。
	情報・エレクトロニクス専攻		○	○	○	CP1の関連科目について、全ての科目が「高度専門科目」に該当するという指摘に対し、全ての科目にCP1の対応関係を示す記号を記載した。
	機械システム工学専攻		○	○	○	
	建築・デザイン・マネジメント専攻		○	○	○	CP2の関連科目について、全ての実験科目および演習科目が該当するという指摘に対し、全ての実験科目および演習科目にCP2の対応関係を示す記号を記載した。CP2の対応関係を示す記号を記載した。 CP4の関連科目について、演習・実験科目が対象となるという指摘に対し、講義科目についていた対応関係を示す記号を削除した。ただし、一部科目には実習的要素もあることから対応関係を示す記号を記載した。

【修士課程・博士前期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	教育統括ディレクターからの修正
農学研究科	農学専攻		○	○	○	【その他】DP4の関連科目について、DP達成のために特に重要な科目が少ないという指摘に対し、一部科目に対応関係を示す記号を記載した。
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	
医学系研究科	先進的医科学専攻		○	○	○	【その他】「行動規範教育」の内容について、教育効果が担保されていることを確認した。
	看護学専攻		○	○	○	【その他】「基礎看護学特論Ⅰ、Ⅱ」、「基礎看護学演習Ⅰ、Ⅱ」、「高度実践看護学特論Ⅰ」の内容について、DPとの対応関係が適切であることを確認した。
教育実践研究科	教職実践専攻		○	○	○	

【博士課程・博士後期課程】

研究科	専攻		観点 1	観点 2	認定の可否	備考
理工学研究科	地球共生圏科学専攻		○	○	○	
理工学研究科	先進工学専攻		○	○		CP1の関連科目について、全ての講義科目が「高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目」に該当するという指摘に対し、全ての講義科目にCP1 の対応関係を示す記号を記載した。 CP2、4、5 の関連科目について、演習・実験科目が対象となるという指摘に対し、講義科目についていた対応関係を示す記号を削除した。
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	
医学系研究科	医学専攻		○	○	○	
	先進的医科学専攻		○	○	○	【その他】「行動規範教育」について、博士前期課程の「行動規範教育」と講義内容が同一であるがポリシーの対応が異なっていたため、内容を揃えて訂正した。
	看護学専攻		○	○	○	

教育課程の編成・実施方針（CP）

1. 高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目を編成する。
2. 論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力、仮説を検証する能力、習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力及び科学者・技術者を巻き込んで研究やプロジェクトを推進する能力を身に付けるために演習科目及び実験科目を編成する。
3. 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
4. 演習科目及び実験科目では、必要に応じて複数の教員が指導に当たり、専門的な知識を実践的に体得させる。
5. 研究の計画の立案及び実施に当たっては、複数の指導教員及びメンターが定期的に指導及び助言を行う。
6. 成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
7. 博士後期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

学位授与方針（DP）

1. 専門とする工学分野の科学・技術に関する深い知識と技能を身に付けている。
2. 科学・技術を発展させる上で必要な論理的な思考力・記述力、発表・討議の能力を身に付けている。
3. 社会や科学・技術に関する課題を深く理解し、これを解決するための仮説を検証する能力を身に付けている。
4. 専門とは異なる分野の科学・技術に関する知識を身に付けている。
5. 習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力を身に付けている。
6. 俯瞰的な視野に立って情報を収集し、計画を立案、実施する能力を身に付けている。
7. 世界に向けて自らが発見した科学的知見や創生した技術を発信する能力を身に付けている。

科目区分	NO	授業科目名	単位数	令和2年度 履修者数	令和3年度 履修者数	時間割 コード	授業 形態	開講 学年	教育課程の編成・ 実施方針（CP）							授業の目的	授業の到達目標	学位授与方針（DP）						
									CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
基盤科目	1	先進工学基礎	1				講義	通	○	○		○	◎	○		先進工学を専門とする研究者として活躍するために必須の基礎知識を学ぶことを目的とする。	先進工学を専門とする研究者として身に付けなければならない基礎知識を身につけ、必要に応じてそれら応用することができる。	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I	○ I
化学・ バイオ工 学分野講 義科目	2	無機材料工学特論	2				講義	1	◎					○		高実社会で利用されている機能性無機材料や今後活躍が期待される生命無機化学に関する理解を深めることを目的とする。	機能性無機材料の機能発現のメカニズムや生命活動に不可欠な生体物質の生命化学的役割等について、理論に基づき議論することができる。	◎ M	◎ I		○ I			
	3	化学計測・生体情報特論	2				講義	1	◎					○		物質を有効活用する観点に基づき物質や生体が有する情報を取得し、それを解析する方法を学ぶことを目的とする。	物質の分離とそのための分析機器、生体情報の計測とその解析技術、ソフトウェア・AD変換などのラインモニタリング技術を深く理解し、必要に応じてそれら応用できる。	◎ M	◎ I		○ I			
	4	化学工学特論	2				講義	1	○	◎				○		産業分野で重要な分離プロセス、機械操作、材料プロセス、伝熱工学に関する知識を得ることを目的とする。	分離プロセスにおける式モデルから分離技術を解釈することができる。また、粉粒体の諸特性と製造工程(装置、条件など)とを関連付け、熱力学的基礎に基づき数値的に計算できる。熱媒流体を利用した新たな伝熱促進技術の原理を、伝熱促進技術の基礎に基づき説明できる。	◎ M			○ I	◎ R		
	5	応用物理化学特論	2				講義	1	◎					○		界面・表面現象や光イメージングといった物理化学的な現象の工学分野における役割を学ぶことを目的とする。	界面での現象やエネルギーデバイスにおける界面設計、粉体表面の物性およびその測定法、さらに様々な表面処理方法について深い知識を身につけ、必要に応じてそれら応用できる。	◎ M	○ I		○ I			
	6	有機機能工学特論	2				講義	1	○					○	○	有機分子設計化学、機能分子化学、ナノ結晶・ナノ粒子、遷移金属触媒反応を取り上げ、種々の機能性有機材料の概説と、機能の発現機構、分子構造と機能制御の関係について論じ、それぞれの解析法、新規な有機材料の分子デザインおよびその合成戦略について解説・議論する。	種々の機能性有機材料の機能、構造解析、分子設計、合成法などに関する深い知識を身につけ、必要に応じてそれら応用することができる。ケミカルテクノロジー、ナノテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I
	7	生体有機分子工学特論	2				講義	1	○		○		○	○		創薬や遺伝子・タンパク質研究に重要な天然物やペプチドの合成、タンパク質の化学的、生物学的な合成、有機化合物と酵素・受容体などのタンパク質との相互作用について概説し、分子設計、評価方法、構造活性相関など生物機能工学の基礎を理解し、それらを用いた最新技術に対する理解を深める。	生体機能物質化学、創薬有機化学、タンパク質工学、遺伝子工学、有機合成化学に関する基礎となる専門知識について述べる事が出来、研究の最新の知見について討議することができる。バイオテクノロジー、ケミカルテクノロジーの分野における社会的課題についてその解決法を議論できる。化学・バイオ工学分野の論文執筆に必要な論理展開が出来る。	○ M	○ R	○ R	○ I			○ I
	8	バイオ工学特論	2				講義	1	○				○	○		発生・生殖生物学及び細胞生理学を中心とした生命科学の研究分野に関連する重要な生物現象を取り上げ、これら生物現象を解析するための先端計測技術とその応用例を解説する。工学と生命科学の異分野融合研究の意義と重要性を理解する。	各種組織を構成する細胞の特徴を、機能と構造面から説明できる。個体を構成する組織など細胞のつくる社会に関して、細胞・分子レベルで理解することができる。先端計測技術などの工学と生命科学との融合の社会貢献に関して理解を深める。	○ I	○ R	○ R	○ R		○ R	○ I
	9	医工学特論	2				講義	1	○				○	○		高度医療において、人工物を生体内に埋入する材料(生体材料)の臨床応用は年々増している。本講義では、高度臨床医療で用いられている生体材料を中心に学ぶ。生体材料の設計指針及び開発状況を基礎から応用に至るまでを学ぶとともに、最新の話題を取り上げ、工学から医学へのアプローチ方法を考える。	1.生体材料の種類を挙げて説明できる。2.材料の適用症例の概略が理解できる。3.生体内での材料の使用方法を説明できる。4.医療機器の構成と使用材料を説明できる。	○ R		○ M	○ I			○ R

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。

- ◎ DP達成のために、特に重要な事項
- DP達成のために、重要な事項
- △ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。

- I Introduced = 導入
- R Reinforced/Practiced = 発展/強化
- M Mastered = 熟達
- A Assessed = 測定/把握

理工学研究科 化学・バイオ工学専攻

【修士課程・博士前期課程】

カリキュラムポリシー（CP）

- 1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基盤教育科目及び基礎専門科目と、化学・バイオ工学専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。
- 2) 論理的な思考力と記述力、日本語及び英語での発表と討議の能力、習得した化学・バイオ工学分野の知識と技能を使いこなし、さらに、発展させる能力を身に付けるため、演習科目及び実験科目を設ける。
- 3) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- 4) 演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、化学・バイオ工学分野の専門的な知識や実験技術および操作方法を実践的に体得させる。
- 5) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- 6) 博士前期課程の学位規程に基づき、評価する。

理工学研究科 情報・エレクトロニクス専攻

【修士課程・博士前期課程】

カリキュラムポリシー（CP）

- 1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基礎教育科目及び基礎専門科目と、専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。
- 2) 論理的な思考力と記述力、発表と討議の能力、習得した知識と技能を自在に応用できる能力と、自らが発見した科学的知見や革新的な技術を発信する能力を身に付けるため、演習科目及び実験科目を設ける。
- 3) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- 4) 演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、専門的な知識や技能を実践的に体得させる。
- 5) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- 6) 博士前期課程の学位基準に基づき、学位論文を評価する。

カリキュラムポリシー（CP）

- 1) 豊かな人間力を涵養し、知の総合的推進力を養成する基盤教育科目及び基礎専門科目と、化学・バイオ工学専攻領域の基礎から先端分野にわたって専門的知識・技能の深化を図る高度専門科目からなる体系的な教育課程を編成する。
- 2) 論理的な思考力と記述力、日本語及び英語での発表と討議の能力、習得した化学・バイオ工学分野の知識と技能を使いこなし、さらに、発展させる能力を身に付けるため、演習科目及び実験科目を設ける。
- 3) 講義科目においては、適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ、知識のより深い理解を促す。
- 4) 演習科目及び実験科目では、複数の教員が指導に当たり、化学・バイオ工学分野の専門的な知識や実験技術および操作方法を実践的に体得させる。
- 5) 成績評価基準に基づき厳格な評価を行う。
- 6) 博士前期課程の学位規程に基づき、評価する。

農学研究科 農学専攻**【修士課程・博士前期課程】****ディプロマポリシー（DP）**

- 1) 豊かな人間力
 - DP1 食料・生命・環境科学に強い関心を持ち、主体的・自律的に学習を継続できる。
 - DP2 専門職従事者としての倫理観と責任感を持ち、コンプライアンス遵守の精神を身につけている。
- 2) 深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野
 - DP3 各自の専門分野における高度な知識や技術を身につけている。
 - DP4 文理を超えた様々な分野の専門的知識を理解し、多様化・複雑化した社会の要請に応じてそれを活用できる能力を有している。
- 3) 多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力
 - DP5 国際社会や地域社会における専門分野に関わる課題を抽出・探求でき、その解決ために研究・開発する行動力を有している。
 - DP6 他分野との共同作業ができ、創造的な事業に従事するための実践的な能力を有している。

カリキュラムポリシー（CP）

- 1.高い専門力及び融合力の基となる知識を身に付ける講義科目を編成する。
- 2.論理的な思考力・記述力，発表・討議の能力，仮説を検証する能力，習得した知識や技能を自在に応用して新たな知見を生み出す能力及び科学者・技術者を巻き込んで研究やプロジェクトを推進する能力を身に付けるために演習科目及び実験科目を編成する。
- 3.講義科目においては，適宜グループディスカッションやプレゼンテーションを取り入れ，知識のより深い理解を促す。
- 4.演習科目及び実験科目では，必要に応じて複数の教員が指導に当たり，専門的な知識を実践的に体得させる。
- 5.研究の計画の立案及び実施に当たっては，複数の指導教員及びメンターが定期的に指導及び助言を行う。
- 6.成績評価基準に基づき，厳格な評価を行う。
- 7.博士後期課程の学位基準に基づき，学位論文を評価する。